

県外派遣審判員報告書

作成日 H30年 5月 9日

大会名	第72回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会		会場	宮崎県体育館	
期間	H29.4.27(金)~4.30(土)		報告者	山本耕大	
スケジュール					
期日	内容			場所	
4月28日(土)	10:30~	男子予選リーグ 宮崎工業(宮崎) 対 東海星翔(熊本)		宮崎県体育館	
	13:30~	男子予選リーグ 鹿児島工業(鹿児島) 対 柳ヶ浦(大分)		宮崎県体育館	
4月29日(日)	9:00~	女子順位決定リーグ2位パート 国府(熊本) 対 慶誠(熊本)		宮崎県体育館	
レクチャー・審判会議の内容					
なし					
実技	割り当て	宮崎工業 対 東海星翔	Umpire	相手	岩元英樹(宮崎)
○ゲーム前(プレカンファレンス) 特になし ○ゲームの実際 両チームともビッグマンがいないチームであったが、インサイドのプレイも積極的に行ってきた。1Pでそのインサイドの面取りでの手の使い方が整理できず、最後まで笛を入れることができなかった。また、宮崎工業はメンバーチェンジを頻繁に行っていたため、新しく出てきたプレイヤーにファウルの基準を示すことが求められた。そうした中で、1Pで宮崎工業のチームファウルが重なり、東海星翔のチームファウルがほとんどなかったのに対し、2Pは宮崎工業のチームファウルはなく、東海星翔のファウルが重なった。このことで、ベンチがフラストレーションを溜める結果となってしまった。 ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 藪崎康平氏(B) 級 1P、2Pでチームファウルの数が大きく異なった点については、同じ基準で判定できていなかったのではないかと。また、面取りについては、ファーストコンタクトで判定できなかったためにそのプレイを整理することができなかった。現象の激しさではなく、質で判断することが必要である。					
実技	割り当て	鹿児島工業 対 柳ヶ浦	Umpire	相手	倉掛啓輔(宮崎)
○ゲーム前(プレカンファレンス) エリア3でのプレイにおいてはトレイルがペネトレイトして判定し、エリア6のポストプレイはリードが積極的に渡って判定することを確認した。また、早い段階でガイドラインに沿った基準を示し、特にポストプレイに関する手の使い方や体の寄せ方について基準を明確に示すことを話した。 ○ゲームの実際 両チームの悪い手の使い方について、早い段階でガイドラインに沿って整理することができた。また、インサイドのプレイに関しては、声を使ってプレイヤー手を使わせないようにさせることができた。トレイルの時は、エリア5のベースライン周辺のトレイルプライマリーエリアでのプレイに関して責任を持ってジャッジを行ったが、リードの時のプライマリーエリアでのドライブに関してはスペースウォッチングが不十分であったために判定できないことがあった。 ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 岩元英樹氏(B) 級 リードのプライマリーエリアで、ドライブの始まりとディフェンスの位置を目に入れ、ショットの時にディフェンスが先に位置を占めたのか、ディフェンスが着地点に入ってきたのかを判定する。また、柳ヶ浦がダブルチームを積極的に仕掛けていたが、仕掛けの始めの時に手を使ってボールマンを止めているシチュエーションがあり、トレイルが判定すべきであった。					
実技	割り当て	国府 対 慶誠	Umpire	相手	長田大輔(宮崎)
○ゲーム前(プレカンファレンス) 両チームともインサイドのプレーが多いという情報があったため、ポストプレイについてはリードが積極的にスペースウォッチングを行うとともに、トレイルも場合によってはフリースローラインより下にペネトレイトして判定することを確認した。 ○ゲームの実際 早い段階で両チームの悪い手の使い方、特にハンドチェックに関して判定することができた。どちらのチームもビッグマンがおり、積極的インサイドプレイを行ってきた。これまでの反省から、そのインサイドプレイに関してはリードが責任を持って判定することができた。また、リードのプライマリーエリアでのリバウンドプレイに関して、判定できずにノーコールのままになってしまう場面があった。 ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 椋園亨氏(B) 級 リバウンドプレイでノーコールであった場面については、ショットの後にそのままクローズダウンに位置にいたためにリバウンドの始まりから目に入れることができなかったのではないかと。リバウンドの時には、リードは開くか下がることで広い視野を確保して判定する。また、ゲームを通してドライブに対してクロスステップを使うことができていなかった。					
全体を通しての感想					
新規B級として、積極的に判定し、多くの学びを得ようとの気持ちを持って挑みました。その中で、もっと踏み込んで判定すべきであったもの、また、状況を考慮してノーコールにすべきであったものがあり、自分の判定がゲームにマッチできなかったことが反省として一番に挙げられます。このことでベンチにフラストレーションを与えてしまい、それに対応できなかったことも課題となりました。また、今回得られた成果として、トレイル、リードともに、何のために位置を変えるのか、どのプレーを見に行くのか、どここのスペースを捉えに行くのかについて考えながら位置取りを行うことでより積極的にプレーを判定しに行くことができました。今回は、経験したことのないハイレベルなゲームを担当する中で多くの学びを得ることができました。この学びを生かし、自己のレベルアップを目指して研鑽を重ねて参ります。 最後に、運営を担当していただいた宮崎県バスケットボール協会の方々、大会を通して様々なことをお教えくださった宮崎県含め、熊本県、大分県の審判委員の方々、そして今回派遣のチャンスをくださった鹿児島県審判委員会の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。					